

不二製油グループ本社株式会社 2023 年度第 4 四半期 決算説明会 主な質疑応答

・日時	2024 年 5 月 10 日（金） 11:00～12:00		
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	酒井 幹夫
	取締役 兼 上席執行役員	最高経営戦略責任者 CSO	田中 寛之
	上席執行役員	不二製油(株)代表取締役社長	大森 達司
	上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳

Q. カカオ価格の高騰はどのような影響が考えられるか。

A. カカオ価格の高騰により、リスクとしては原材料のコストアップやチョコレート需要減退が挙げられる一方で、ビジネスチャンスとしてはチョコレート用油脂やコンパウンドチョコレートの需要増加を期待している。足元では、チョコレート用油脂の購入量の増加や新規採用検討などの問い合わせが増えている。これらが顕在化してくるのは、2024 年度第 4 四半期以降を想定しており、需要に対応できるよう、チョコレート用油脂の増産に向けて準備を進める。長期的には、チョコレートの消費が拡大する中でカカオの供給不足を背景に、チョコレート用油脂やコンパウンドチョコレートの需要はより一層高まると考えている。

Q. ブラマー2024 年度の計画について。

A. 2024 年度は、シカゴ工場の閉鎖による固定費の削減に加え、原材料価格だけでなく金利上昇に伴う関連費用なども含め販売価格対応を行うことにより、収益の大幅改善を見込んでいる。また、ブラマーの損益計算書の連結期間を 2024 年度より 4 月～翌年 3 月の損益計算書を連結する。2024 年 2、3 月の損益については、2024 年度の第 1 四半期において貸借対照表の利益剰余金の増減として調整を行う。

Q. 2024 年度連結営業利益は、上期 70 億円に対し、下期 130 億円と下期型になっている背景は。

A. ブラマーのシカゴ工場の閉鎖は 5 月末を予定しているおり、シカゴ工場製造品の他工場移管も含め、収益改善の効果が出てくるのは下期と考えているため。

Q. 欧州の植物性油脂事業が堅調だが、その背景は。

A. 欧州では、トレーサブルで環境・人権に配慮したサステナブル調達に加え、油脂中に含まれる微量成分をコントロールした製品のニーズが高まっている。不二製油グループは、サステナブルでかつ品質コントロールができた製品を安定的に供給することができ、こうした点を顧客から高く評価いただいている。

Q. FUJI ROIC や工場生産性指標の導入・活用により、経営基盤が強化されてきた。経営基盤のさらなる高度化や事業ポートフォリオのさらなる見直しに向けた課題感は

A. FUJI ROIC を通じた基盤強化においては、植物性油脂事業、乳化・発酵素材事業で改善が進む一方、業務用チョコレート事業では、ブラマーでの構造改革の実行、大豆加工素材事業では、大豆たん白食品の工場再編を進める。また、遅れている東南アジア、中国の乳化・発酵素材事業においても取り組みを加速する。次期中期経営計画では、強化した基盤を基に、資本効率を勘案しながら成長の見込みのある事業に投資していく。

以上